

# 腎臓からのSOSを見逃していませんか？

自覚症状に乏しい腎臓の病気は、早期から適切な治療を受けることが大切です。

## 健診結果を見直してみましょう

(1+/2+/3+)は  
医療機関の受診を

蛋白尿は腎臓の涙！  
泣いている原因を探しましょう。

尿検査	糖	(-)	腎機能	尿素窒素	12.1
	蛋白	(1+)		クレアチニン	1.1
	潜血	(-)		eGFR	56.9
				尿酸	
			電解質	ナトリウム	
				カリウム	
				クロロゲン酸	
				カルシウム	
				無機リン	

60未満は  
医療機関の受診を

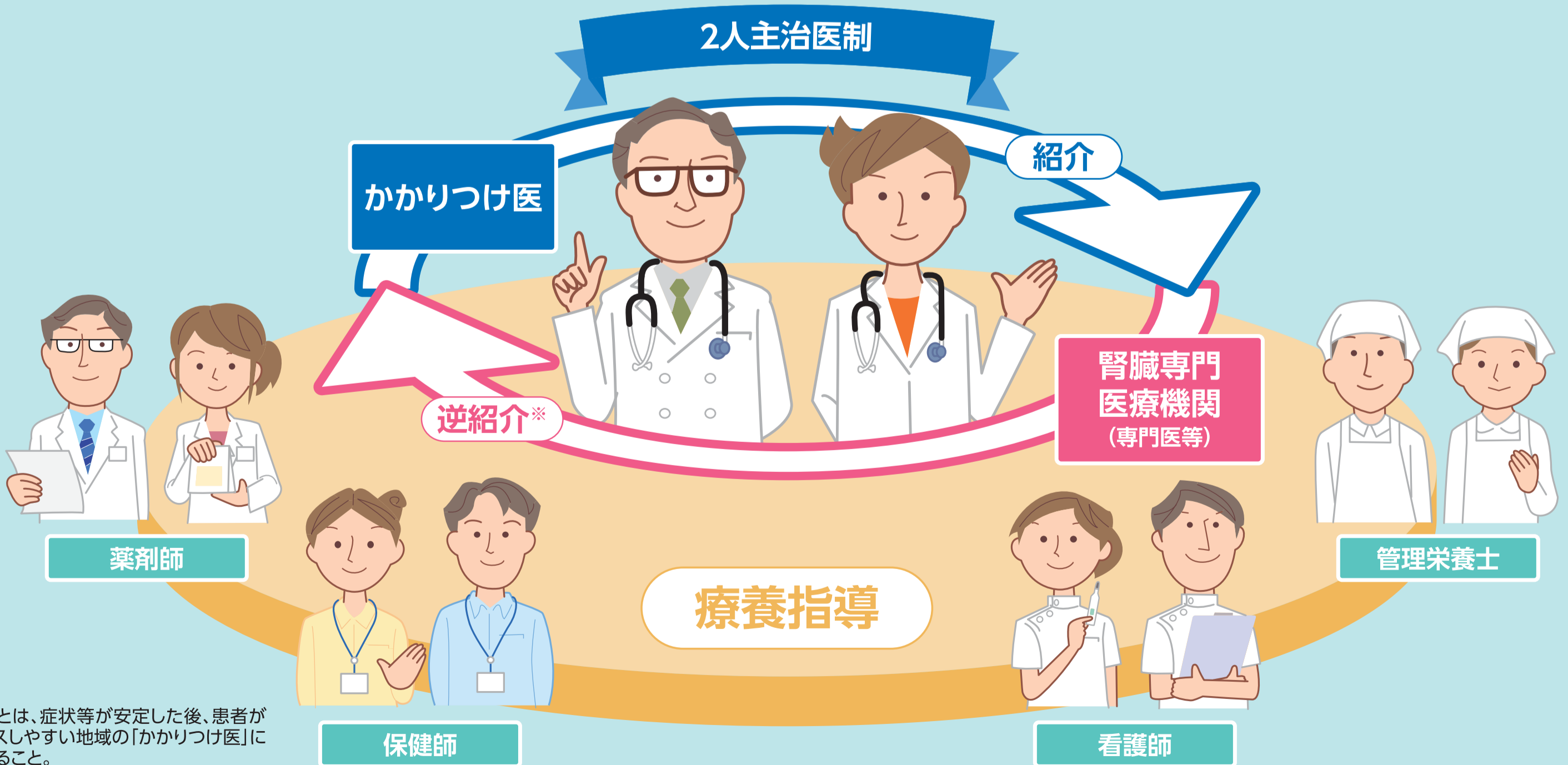
年齢・性別・血清クレアチニン値より  
計算されるeGFR値は、腎臓の状態を  
示します。

- ・クレアチニンは健診における必須項目ではないため、測定されないことがあります。
- ・既に医療機関を受診している場合は主治医に相談してください。
- ・60未満が3か月以上持続する場合、慢性腎臓病の可能性があります。

自分の腎臓と長くつきあうための第一歩  
かかりつけ医に相談しましょう。

## 安心して治療を受けられる医療体制の整備に取り組んでいます

かかりつけ医等と腎臓専門医療機関(専門医等)が連携して診療し(2人主治医制)、  
メディカルスタッフとともに療養指導にあたります。



※逆紹介とは、症状等が安定した後、患者がアクセスしやすい地域の「かかりつけ医」に紹介すること。

